

特集 災害ボランティア支援本部

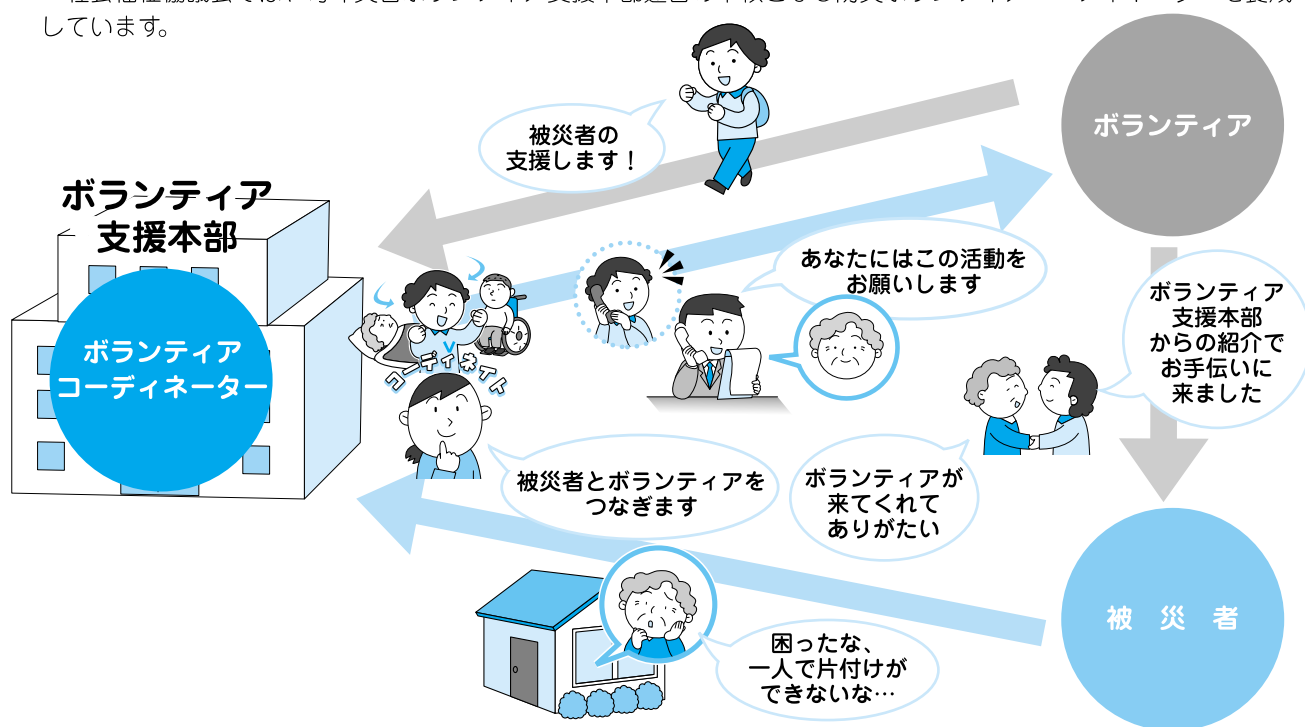
平成7年の阪神淡路大震災、平成16年の中越地震、新潟や福井での水害など、大規模な自然災害が発生した時、全国から集まった災害ボランティアは、その復興に大きな力をもたらしました。

災害発生後、住み慣れた地域での暮らしの復興のため「何かしたい」という思いで集まるボランティアと、助けを必要としている人をつないでいくのが災害ボランティア支援本部です。東海沖地震などの自然災害に備え、私たちは、今からどんなことが出来るのでしょうか？いざという時のために、今回は災害ボランティア支援本部について、一緒に考えてみましょう。

災害ボランティア支援本部で行うことは？

被災後、被災状況に応じて開設される災害ボランティア支援本部（一宮市・一宮市社会福祉協議会）では皆さまのご協力のもと、主には活動して下さるボランティアと、助けを必要としている人をつないでいきます。被災者を支えるボランティアの温かな気持ちは、復興支援の大きな力になることでしょう。

社会福祉協議会では、毎年災害ボランティア支援本部運営の中核となる防災ボランティアコーディネーターを養成しています。



最近多発する地震や異常気象による自然災害、私たちはいつ被災者になるかわかりません。まずは日頃から災害への備えをして自分や家族の命、地域を守っていくことが大切です。そして、復興に向けて、誰かの力が必要になった時には「災害ボランティア支援本部」があることを覚えておきましょう。

また、被災から復興までは市外からのボランティアの力のみならず地域の力も大変重要です。災害が発生した際、被災されなかった方や被災されても早期復旧にこぎつけることができた方は、ぜひ「災害ボランティア支援本部」にも力を貸してください。

9月1日は『防災の日』です

1923年に起きた関東大震災を教訓に、災害への備えを怠らないようにとの戒めと、この時期に多い台風への心構えとの意味も含め、1960年に「防災の日」が制定されました。

いざという時に備え、避難場所や備蓄等の確認、自宅内外の点検などぜひこの機会に行ないましょう！



ちなみに、阪神・淡路大震災を通じては日本のボランティア活動が活発化したことを受けて、1月17日を「防災とボランティアの日」、この日を含む1月15日～1月21日を「防災ボランティア週間」と定められています。